

十勝農業のあらまし

平成21年4月

北海道開発局帯広開発建設部

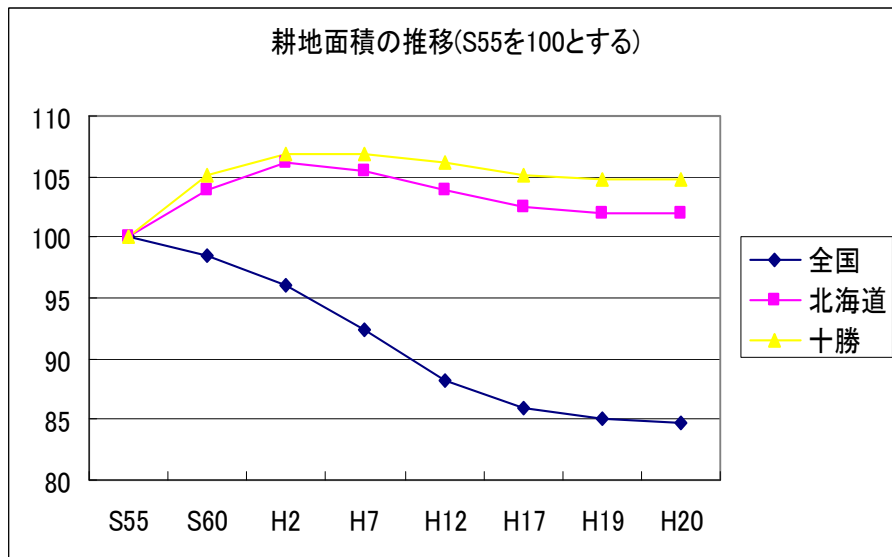
目次

1. 耕地の状況	1
2. 農家の状況	2
3. 作付	3
4. 畜産	4
5. 農作業受委託	5
6. 農業生産(1)	6
7. 農業生産(2)	7
8. 農村における取組(都市・農村交流)	8
9. 農村における取組(食品加工)	9
10. 農村における取組(バイオマス利活用)	10
11. 十勝地域の土地所有状況例	11
12. 十勝地域の農家人口減少と高齢化	12
13. 農業生産を巡る状況	13
14. 今後に向けた取組イメージ(1)	14
15. 今後に向けた取組イメージ(2)	15

1. 耕地の状況

* 十勝地域の耕地面積は平成元年の261,000haをピークに転用などにより緩やかに減少し、平成19年で255,400haとなっている。

* 十勝地域の耕地面積は全道の約22%、全国の約5%を占めている。特に畑は、全国の約12%を占め、大規模な畑作経営が営まれている。



耕地面積の推移 単位:ha

	S55	S60	H2	H7	H12	H20
全国	5,461,000	5,379,000	5,243,000	5,038,000	4,830,000	4,528,000
北海道	1,140,000	1,185,000	1,209,000	1,201,000	1,185,000	1,162,000
十勝	243,800	256,300	260,700	260,400	258,800	255,200

耕地面積の推移 (S55を100とする)

	S55	S60	H2	H7	H12	H20
全国	100	98.5	96	92.3	88.4	84.8
北海道	100	103.9	106.1	105.4	103.9	101.9
十勝	100	105.1	106.9	106.8	106.2	104.7

出典:北海道農林水産統計年報

平成20年の耕地面積 (単位:ha)

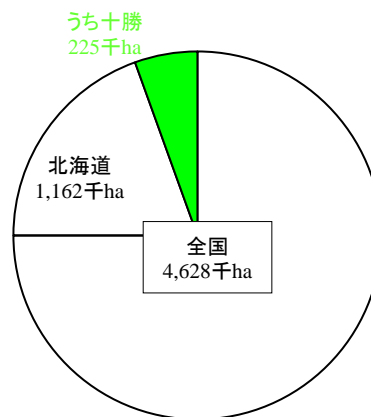
	全国	北海道	十勝
耕地面積	4,628,000	1,162,000	255,200
内畑	2,112,000	936,000	254,400

全国に占める割合

	全国	北海道	十勝
耕地面積	100%	25%	6%
内畑	100%	44%	12%

出典:北海道農林水産統計年報

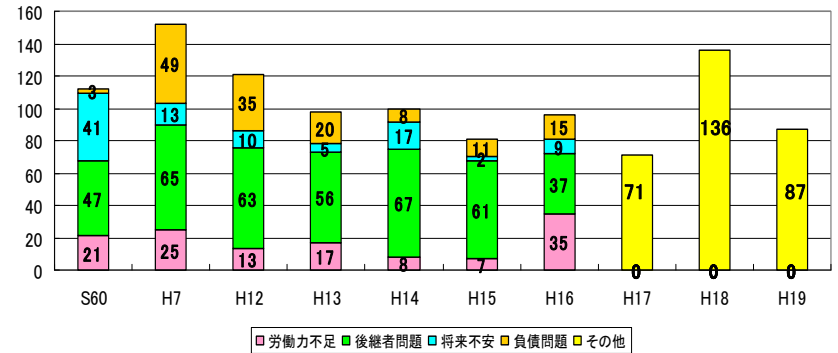
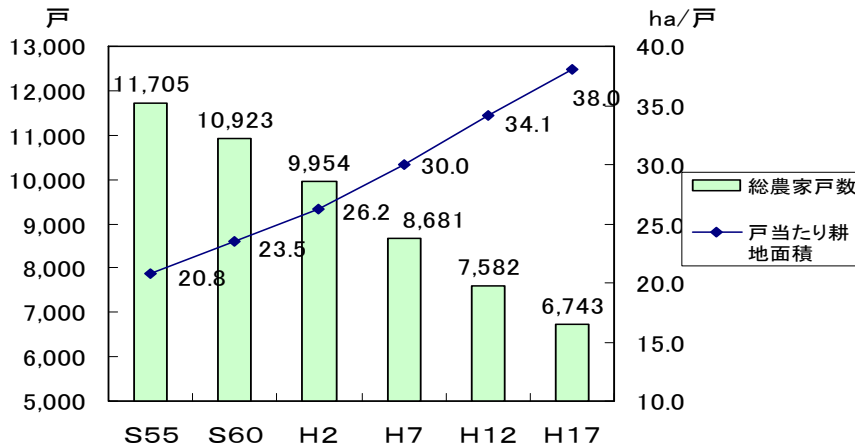
耕地面積



2. 農家の状況

- * 十勝地域の農家戸数は緩やかに減少しており、この10年間で農家数は約22%の減少となっている。
- * 離農の理由として「後継者問題・労働力不足」は各年とも多い。
- * 主副業別でみると十勝地域では主業農家の占める割合が高く、全体の約90%に達する。
- * 戸当たり耕地面積は38ha/戸となっており、北海道平均の約2倍、全国平均の約24倍となっている。

十勝地域における農家戸数及び戸当たり耕地面積の推移

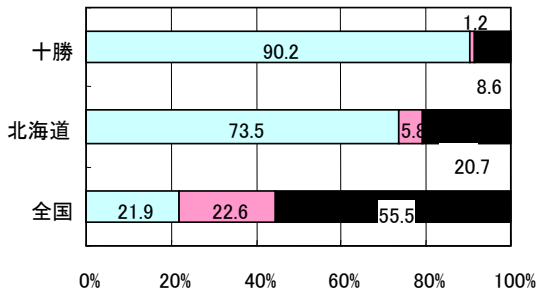


出典: 農林業センサス

注) 調査対象: 農地法及び農業経営基盤強化促進法により農地、採草放牧地を処分して農業を廃止した農家数

出典: 北海道農政部調べ

主副業別農家数(販売農家)の割合(H17)



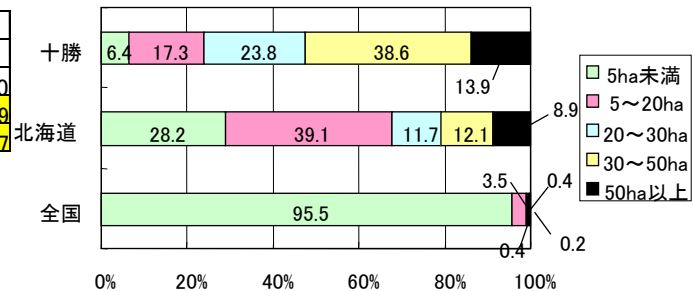
出典: 農林業センサス

1戸当たり耕地面積

	全国	北海道	十勝
① 耕地面積(H18)	4,628,000	1,162,000	255,200
② 農家数 (H17②)	2,848,166	59,108	6,740
③ ②の対全国比	1.0	12.3	23.7

出典: 農林業センサス

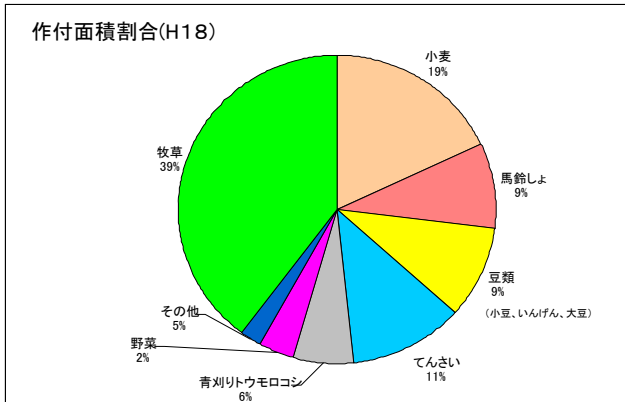
経営耕地面積規模別経営体数(販売農家)の割合(H17)



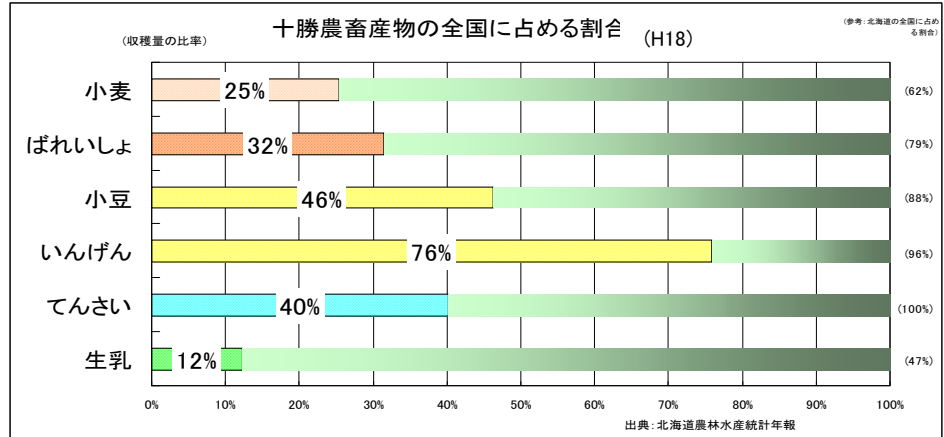
出典: 農林業センサス

3. 作付

- * 十勝地域の作付は小麦、ばれいしょ、豆類、てんさいのいわゆる畑作4品と飼料作物で全作物作付面積の約93%を占める。
- * それら主要農畜産物における全国シェアはいんげんが76%、小豆が46%、ばれいしょが32%など、高い値となっている。
- * 近年、生産額が伸びている野菜は、海外への輸出で注目されるナガイモなどは作付面積を伸ばしており、S60年からの20年間で農業産出額はほぼ倍増となっている。

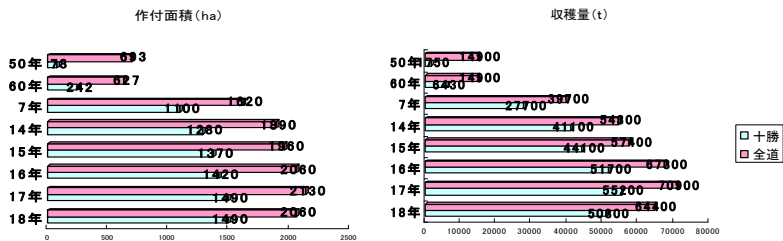


出典：北海道農林水産統計年報



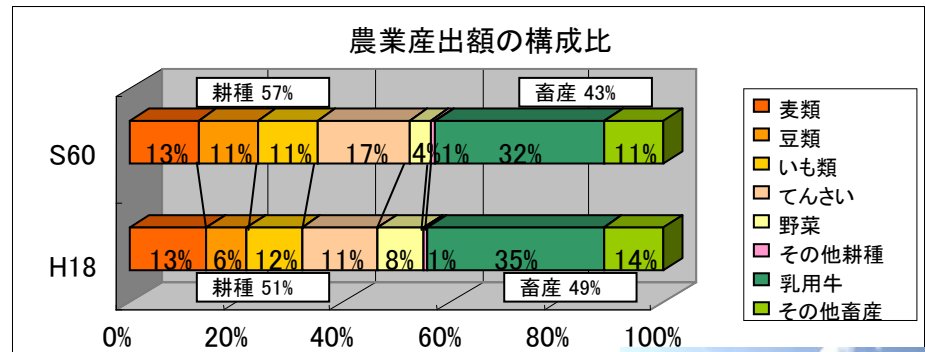
出典：北海道農林水産統計年報

ながいもの作付面積と収穫量の推移



出典：北海道農林水産統計年報

農業産出額の構成比



【十勝地域のながいも栽培事例】

○昭和40年頃、畑作4品の価格低迷による対策として野菜の導入が行われる中で、ながいもの作付が取り組まれる。その後、関西市場での評価を受け、昭和60年代から本格的な産地形成が進められる。

○昭和60年代頃から機械体系化の整備に伴い、他作物との労働競争が解決され、栽培面積の増大が可能となり、ながいも栽培が完全に定着する。この機械化体系の確立のほか、集荷体制の整備、共選体制の統一などによって量、質ともに市場の評価が高まる。

○平成年代に入り、全国への供給と量販店への出荷により作付面積が拡大しているが、近年、競合産地の台頭により、品質の向上に努め銘柄維持に向けた取組が必要となっている。

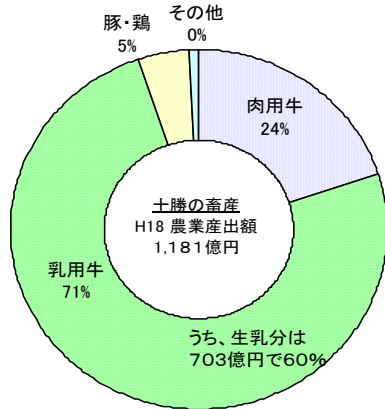
○なお、国内規格外品対策としても進められた海外輸出は、今や「攻めの農業」を体現する代表事例の一つとなっている。



4. 畜産

- * 十勝の畜産は乳用牛と肉用牛で生産額の約95%を占めている。
- * 十勝の畜産は北海道の他地域と比較しても大規模であり、飼養頭数も乳用牛で全道の26%、肉用牛で全道の41%を占める。
- * 生乳生産量については全道の約1/4を占め、また1頭当たり生産量も順調に伸びている。

十勝地域における畜産関係産出額の内訳



平成19年度家畜飼養農家数及び頭数

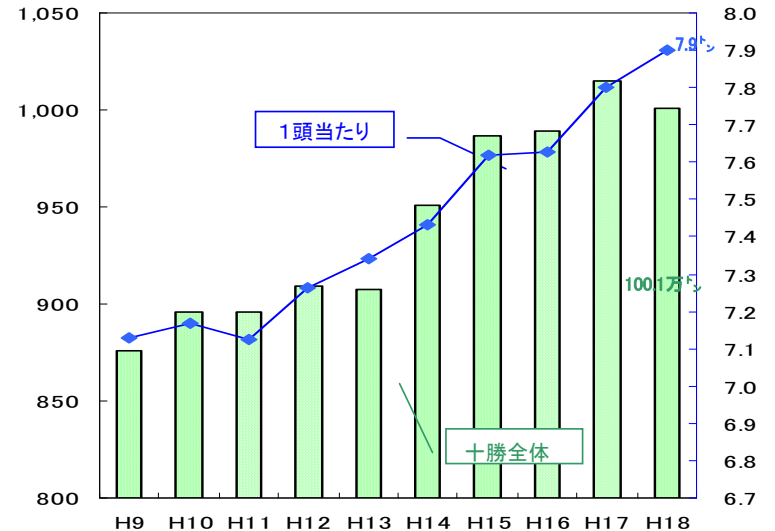
	乳用牛			肉用牛		
	飼養農家数 (戸)	飼養頭数 (頭)	飼養農家当たり頭数 (頭/戸)	飼養農家数 (戸)	飼養頭数 (頭)	飼養農家当たり頭数 (頭/戸)
全国	25,400	1,592,000	63	82,300	2,806,000	34
北海道	8,310	836,000	101	2,980	474,200	159
十勝	1,820	215,100	118	765	196,300	257

出典: 北海道農林水産統計年報

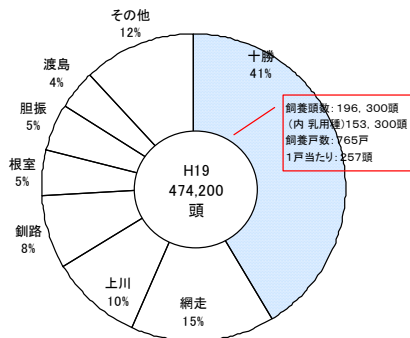
十勝全体(千トﾝ)

十勝の生乳生産量

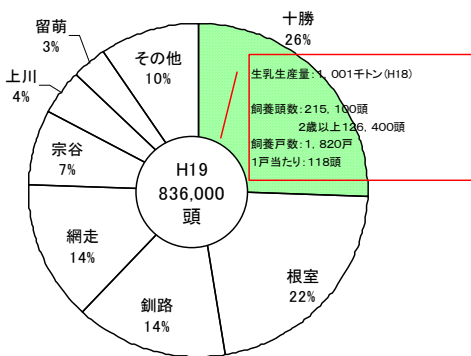
1頭当たり生産量 (トﾝ/頭/年)



北海道の肉用牛飼養頭数



北海道の乳用牛飼養頭数(支庁別)



5. 農作業受委託

* 十勝地域では労働力不足への対応と機械コスト低減のためにコントラクター（農作業受委託）事業に取り組む農協等が増えている。

* 受託作業は牧草、サイレージ用とうもろこしの収穫調整作業及び堆肥散布が主であり、そのほかスラリー散布、堆肥切り返し、耕起、整地、播種、豆類収穫、融雪剤散布等も行われている。

平成20年度十勝管内農作業受委託事業実績

作業名	事業量	H18年比(%)	作業名	事業量	H18年比(%)
牧草(一番草)収穫(ha)	12,574	105	鎮 圧(ha)	1,573	171
牧草(一番草)収穫(ha)	8,079	112	心土破碎(hr)	2,019	70
牧草(一番草)収穫(ha)	1,719	131	牧草施肥(ha)	763	95
サイレージ用とうもろこし収穫(ha)	7,255	134	牧草播種(ha)	487	89
堆肥散布(ha)	7,756	97	コーン播種(ha)	2,168	146
堆肥散布(hr)	3,366	123	ビート移植	73	58
堆肥運搬(ha)	3,513	87	ビート収穫(ha)	119	134
堆肥運搬(台)	5,250	453	大豆コンバイン収穫(ha)	623	101
堆肥運搬(t)	11,152	-	小豆刈取(ha)	328	157
堆肥切り返し	3,382	98	小豆ピックアップ収穫(ha)	461	158
スラリー散布(ha)	41,579	93	石れき除去(ha)	33	110
スラリー散布(t)	227	229	だいこん収穫(ha)	60	286
耕 起(ha)	2,095	108	澁原・加工馬鈴薯収穫(ha)	191	80
耕 起(hr)	954	113	コーン刈除草剤散布(ha)	1,307	157
整 地(hr)	2,156	101	馬鈴薯畑除雪(ha)	831	158
整 地(hr)	654	145	融雪剤散布(ha)	1,017	31

十勝農協連より



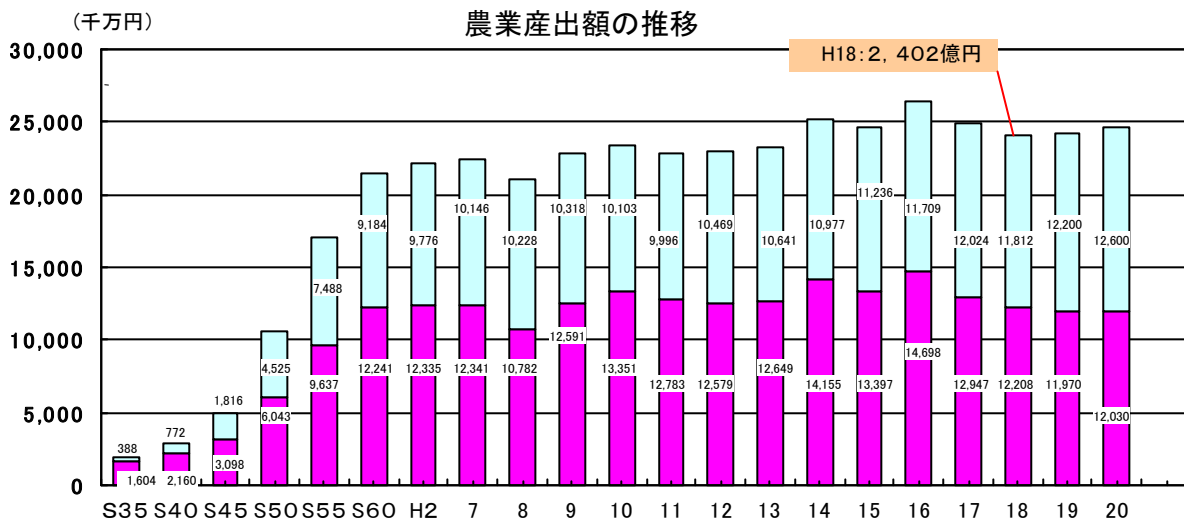
サイレージ用とうもろこし収穫 (中札内村)

6. 農業生産(1)

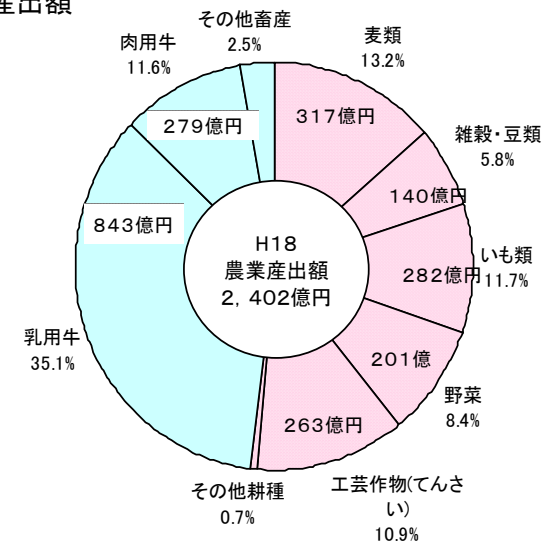
* 十勝地域では近年2,500億円前後の農業産出額をあげており、平成18年には2,402億円で、全道の約1/4を占めている。

* 戸当たり農業生産所得も平均1千万円を超え、販売金額規模別農家数では2千万円から5千万円層の割合が多い。

* 戸当たりの農産物販売額を見ると1千万円を超える農家は全国では6.2%と少ないが、十勝では86%を占めている。



農業産出額

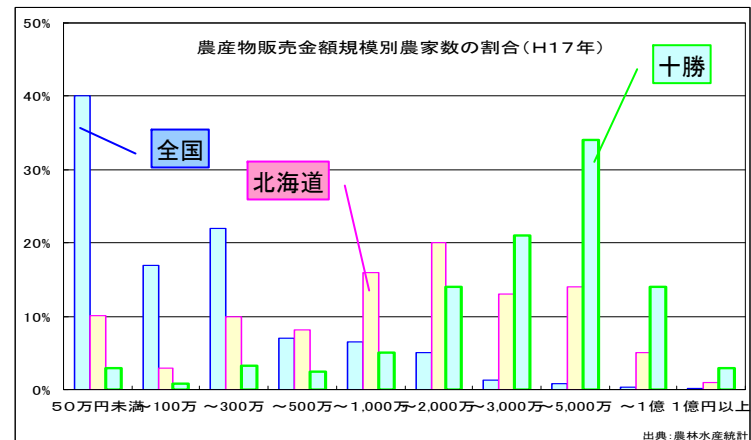


出典:北海道農林水産統計年報、ラウンドの関係で合計が含まれない場合もある。

平成18年の生産農業所得

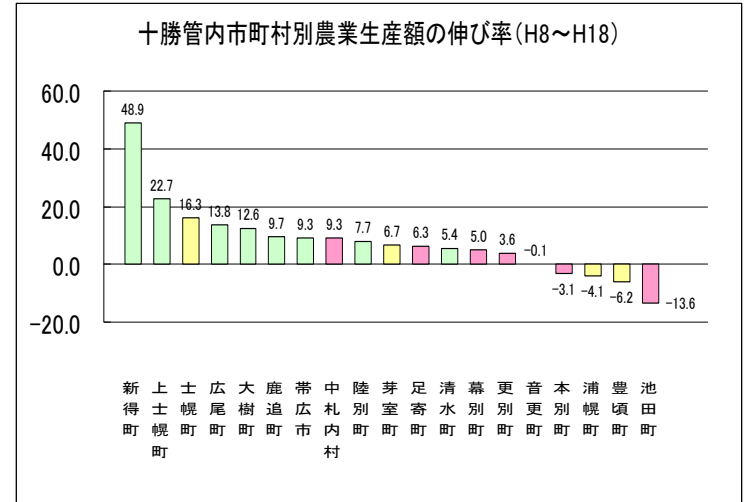
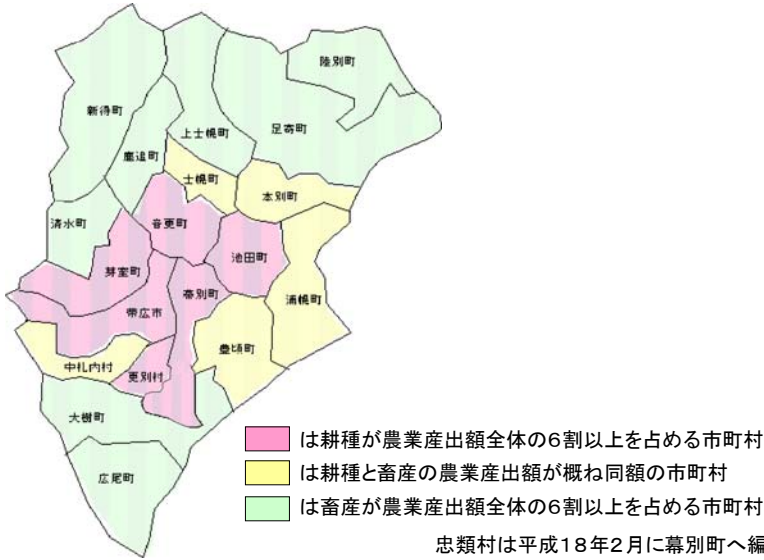
	生産農業所得 (億円)	農家1戸当たり生産農業所得(千円)	耕地10a当たり生産農業所得(千円)
全国	31,103	1,092	67
北海道	3,743	6,333	32
十勝	817	12,116	32

出典:北海道農林水産統計年報

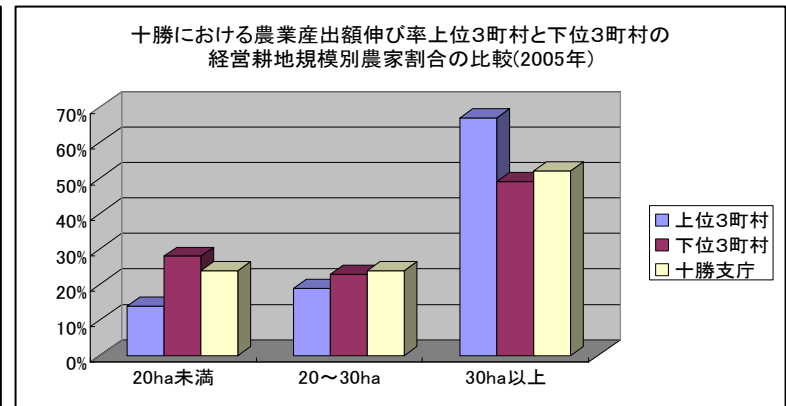
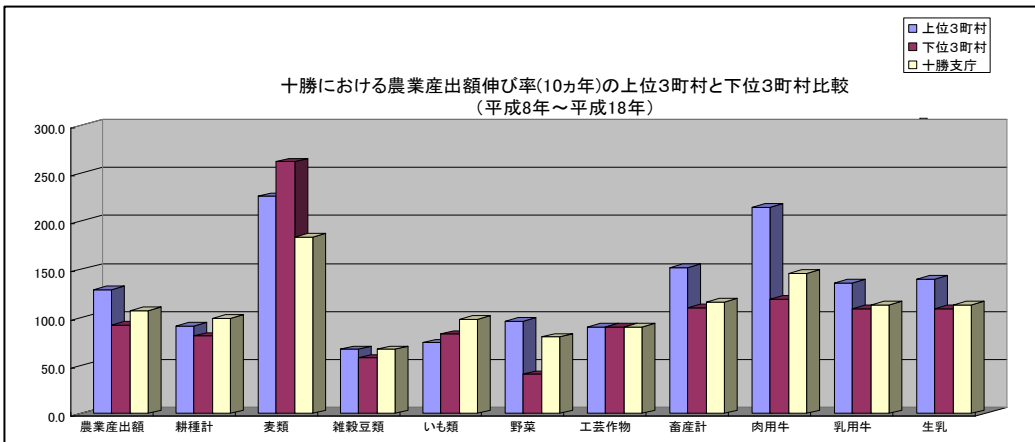


7. 農業生産(2)

- * 市町村別農業生産額を見ると、南部と北部では畜産の割合が高く、帯広市周辺の中央部では畑作が盛んとなっている。
- * この10年間の市町村別農業生産額の伸び率を見ると上位には畜産のウエイトが高い市町村が比較的多い。また下位では土地条件に恵まれない上に価格変動の大きい野菜で低下している。
- * また、生産額の伸び率の低い市町村では比較的経営規模の小さな耕地面積20ha未満層が約3割と高い割合を示している。



出典: 北海道農林水産統計年報



出典: 農業センサスより算出

8. 農村における取組(都市・農村交流)

* 我が国のグリーンツーリズムは平成4年に農林水産省が「農村で楽しむゆとりある休暇」を提唱したのをきっかけに全国的な広がりを見せるが、十勝管内では1980年代後半から1990年代始めより鹿追町の「ファームイン研究会」や新得町の「農村ホリデー研究会」が設立されるなど北海道の中でも早くからその取組が始まっている。

* ファームイン、ファームレストランの草分け的存在である鹿追町の「大草原の小さな家」では年間利用者は18万人にもものぼる。

* その他、スギ花粉症者に向けた「健康とバカンス」をテーマとした都市・農村交流などが上士幌町で取り組まれ、全国的な注目を受けるなど多様な取組が行われている。

◆北海道ツーリズム協会

鹿追町では平成13年に「NPO法人北海道ツーリズム協会」が設立されている。当協会では、単にグリーンツーリズムの活動のみならず、地元酪農家と共同で農村求人ポータルサイト「田舎暮らしのススメ」を開発するなど、幅広い都市・農村交流活動をおこなっている。

農業、酪農経営者は慢性的に労働力が不足しているが、求人広告を出す場合、一般的に費用が高額な上、農業・酪農の魅力が伝わりにくい。このサイトでの酪農家の紹介頁では動画を使い、求職者へ心のこもったメッセージを伝えている。

◆十勝のファームイン(鹿追町)



ファームイン、ファームレストランの草分け的存在である鹿追町の「大草原の小さな家」では年間利用者は18万人にもものぼる。

◆多様な農村体験(新得町)



「新得農村ホリデー研究会」では会員がそれぞれに工夫し、スローフードをモットーにした農家レストラン、農業体験(乳しぼり、野菜収穫、羊の毛刈り)、農産物や工芸品の加工体験(アイスクリーム・チーズ・ジャム作り、糸紡ぎ、草木染め、陶芸、ステンドグラス、木工)、アウトドア活動(登山、フィッシング、乗馬、パラグライダー、フィッシング、ラフティング、カヌー、滝めぐり、歩くスキー)など多様な交流活動を展開。

9. 農村における取組(食品加工)

* また十勝地域では、農産物の高付加価値化に向けたJAによる食品加工などが早くから取り組まれているほか、各地で農村女性起業化グループによる農産物加工、チーズやアイスクリームなどの乳製品等、様々な取組が進められている。

◆ JA等によるばれいしょ加工の取組例

- ・JA士幌町 ポテトチップ、フレンチフライ、コロッケ、ポテトサラダ
- ・JAめむろ ホールポテト、ハーフカットポテト、じゃがバター、フライポテト
- ・更別食品(株) フレンチフライ、カットポテト、ポテトピザ
- ・カルビーポテト(株) じゃがりこ、マッシュポテト

◆ 農村女性起業化グループによる取組例

【本別発 豆ではりきる母さんの会】

日本一の豆の町、本別町の安心な食材を使い「味噌」、「豆腐」、「ようかん」など特産品の加工販売をしている。町内はもとより町外のファンも多い。



女性グループによる食品加工(本別町)

◆ 乳製品における取組例

十勝管内の士幌高校では昭和59年より教育活動の一環としてオリジナルのナチュラルチーズを製造しているほか、管内には14のチーズ工房がある。

これらの取組を背景に平成15年にはEU諸国以外では初となるナチュラルチーズの国際会議が十勝で開催された。



士幌高校で製造されたオリジナルチーズ

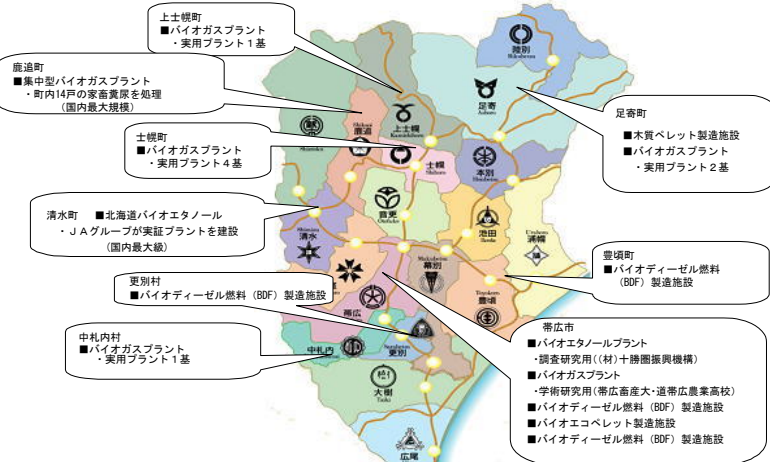
10. 農村における取組(バイオマス利活用)

* 大規模な畑作・酪農地帯を有し、多くの森林資源に恵まれている十勝地域にはバイオマス資源が豊富に賦存している。

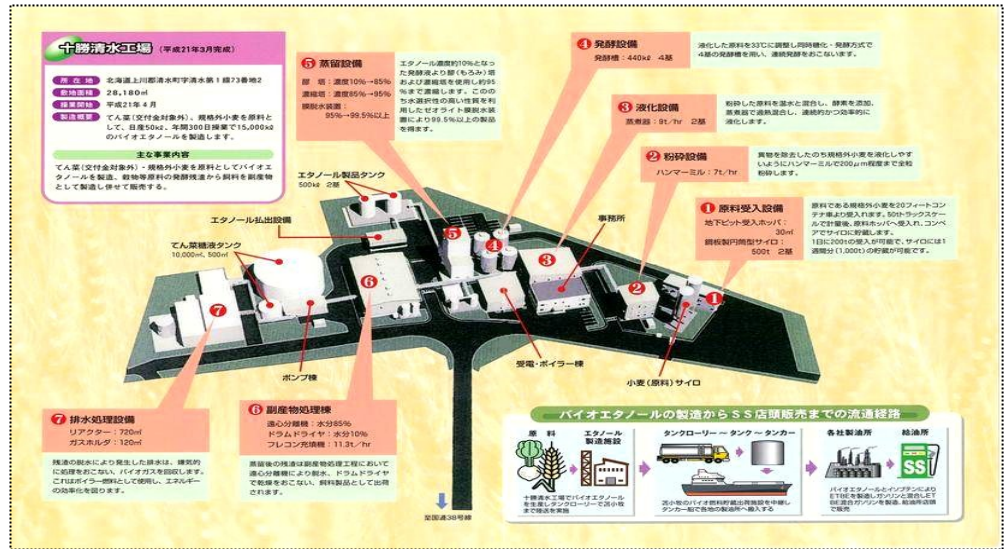
* これまでに10ヶ所のバイオガスプラントが稼働しているほか、木質ペレットの製造・販売・普及やバイオエタノールの実用化に向けた調査研究が行われている。

* 平成16年7月には関係機関・団体等による「十勝バイオマス利活用促進会議」が設立され、バイオマス利活用の実用化やシステム化等の検討が行われており、さらにバイオディーゼルやバイオプラスチックなども含めた種々のバイオマスに関する取組の有機的な連携によるバイオマス・リファイナリーの推進を目指している。

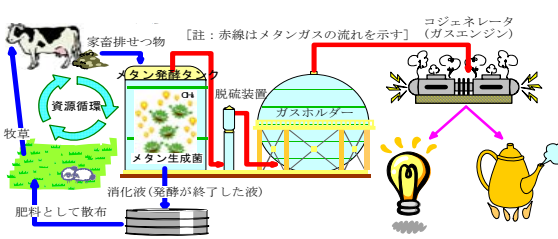
十勝管内のバイオマスマップ



出典:十勝支庁調べ



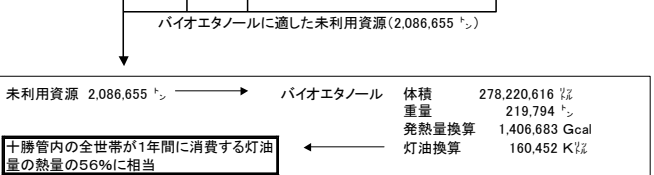
バイオガス取組イメージ図



* バイオガスプラント

十勝管内におけるバイオマス資源賦存量

	本市バイオマス	道内バイオマス	農業残さ	家畜ふん尿	食品産業物	汚泥類	紙類	植物系廃油	合計
全体(合計)	443,220	1,087	2,944,763	5,451,981	176,348	136,192	50,437	751	9,204,779
再資源化/堆肥化量	213,478	590	175,472	5,451,981	135,037	112,504	1,732	622	6,091,416
製品化量	229,365	0	732,215	0	14,466	0	0	0	976,046
未利用資源量	377	497	2,037,076	0	26,845	23,688	48,705	129	2,137,317



11. 十勝地域の土地所有状況例

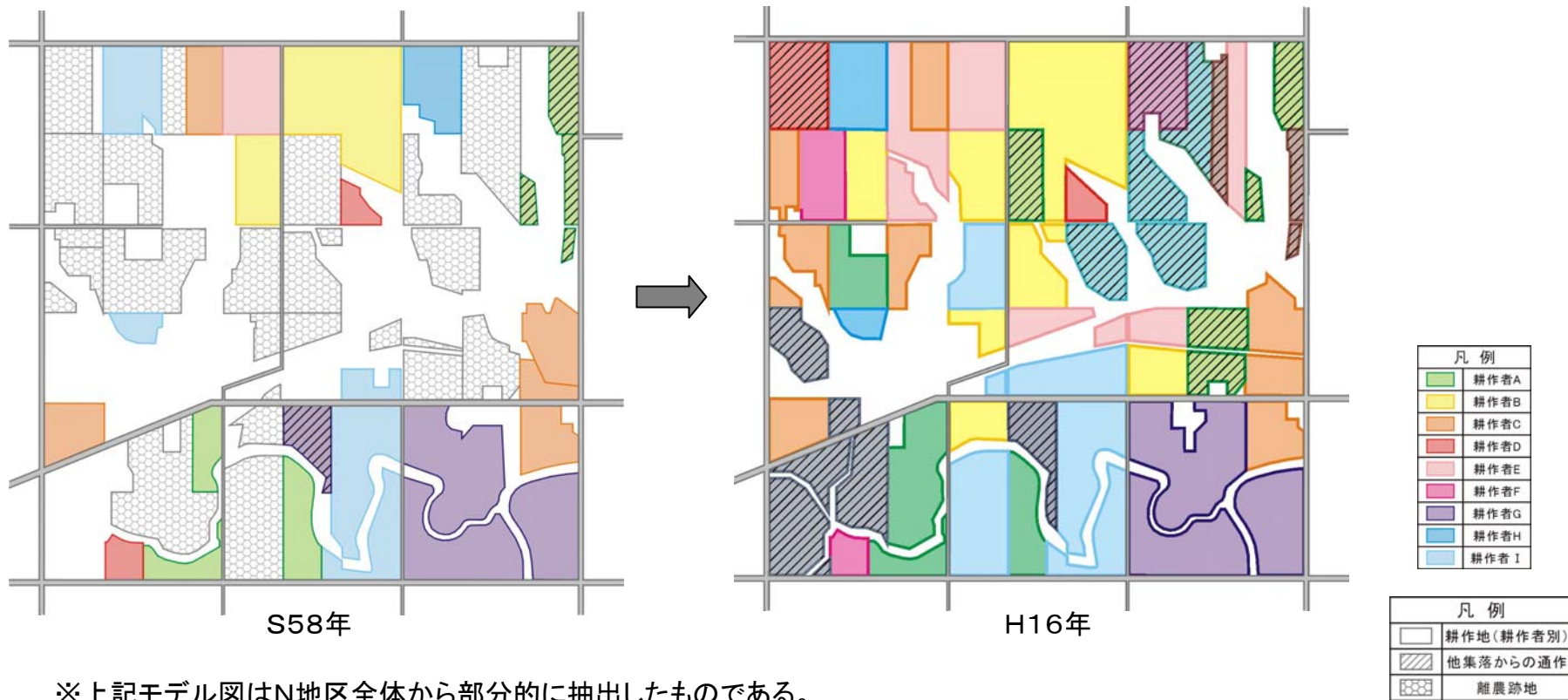
* これまでの経営規模拡大は離農した農家の農地を周辺農家が吸収することで行われてきた。

* しかし地区内での離農跡地の発生と受け手とのバランスが崩れ、土地所有状況は分散し、規模拡大のスケールメリットが発揮しづらい状況になりつつある。

N地区の事例

		S58年	H16年
地区内農地面積		467.7 ha	488.2 ha
農家戸数	集落内	26 戸	15 戸
	通作	16 戸	21 戸
戸当たり面積(集落内)		11.1 ha	13.4 ha

※地区内離農11戸中、現在の地区内居住者は5戸



※上記モデル図はN地区全体から部分的に抽出したものである。

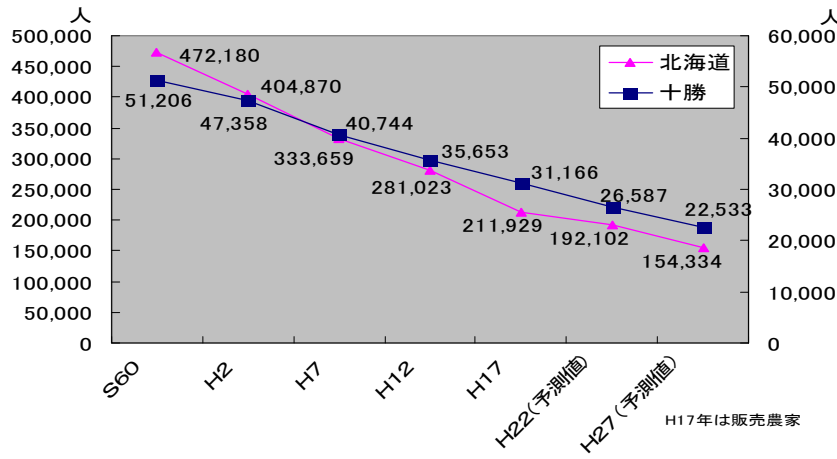
12. 十勝地域の農家人口減少と高齢化

* 十勝の農家人口に関する予測値では、全道平均よりやや減少傾向は緩いものの、H27年にはH12年に比べて約6割程度に減少すると推測されている。

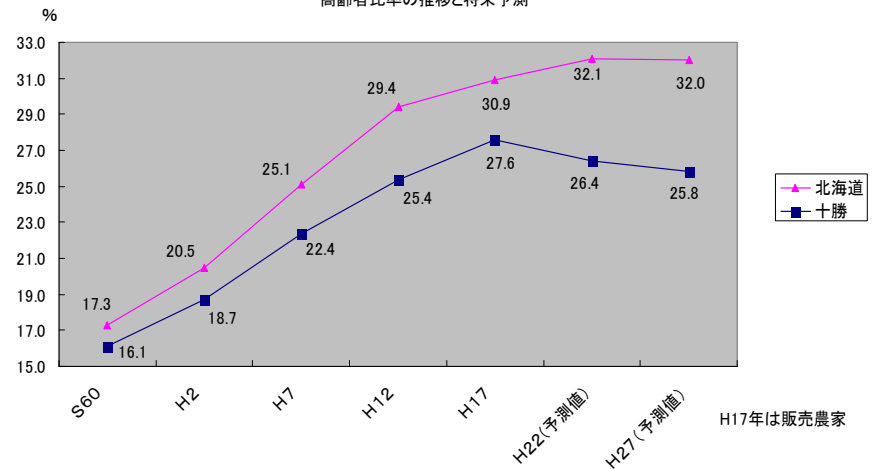
* また農家減少に伴い、戸当たり耕地面積はH27には約50ha程度と現在の約1.3倍になると推測されている。

* 十勝地域の農家の65歳以上人口の高齢化率は北海道平均31%に比べてやや低く28%程度となっている。

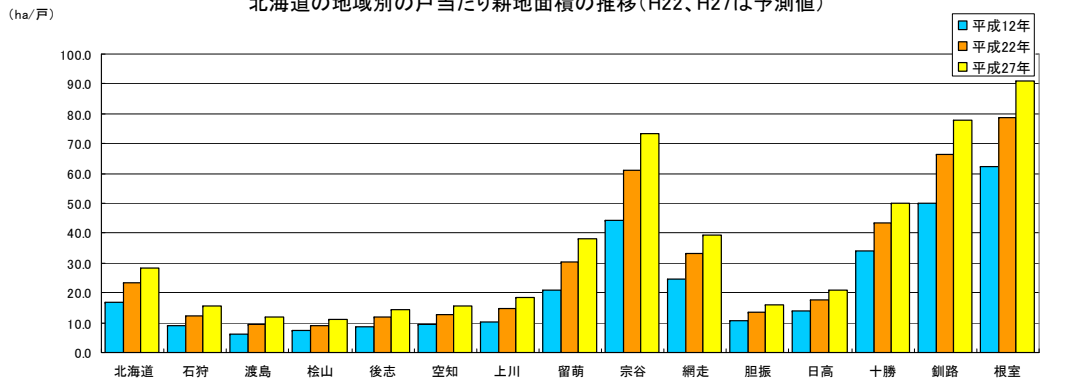
農家人口(農家世帯員数)の推移と将来予測



高齢者比率の推移と将来予測



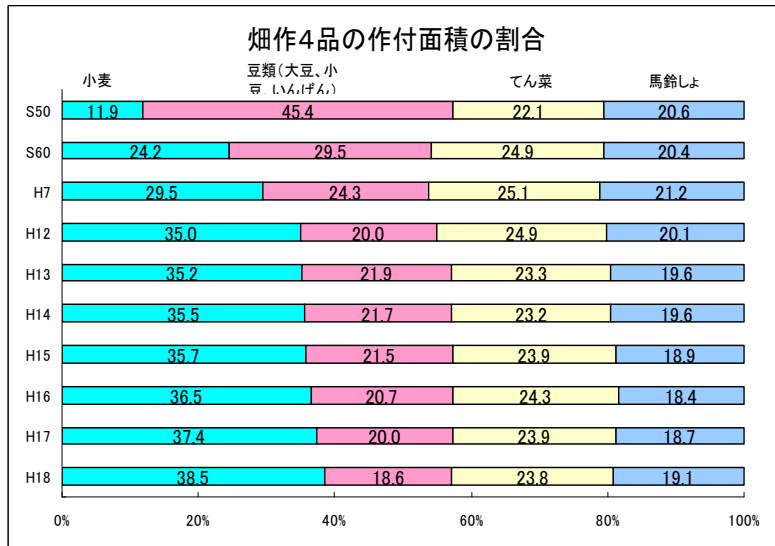
北海道の地域別の戸当たり耕地面積の推移(H22、H27は予測値)



資料:「地域農業マネージメントの手引き(平成15年3月北海道農政部)」(別冊)市町村別農業構造動向推計付表を基に北海道開発局で作成。北海道農林水産統計

13. 農業生産を巡る状況

- * 近年、規模拡大が進行する一方で、労働力不足や収益性の面から小麦への作付偏重による輪作体系の乱れが見られる。
- * また、十勝地域の主要農産物はWTO関連作物が多いことから、品目横断的経営安定対策(日本型直接支払い)に取り組むなど、国際化への対応が求められている。
- * さらに生乳・てん菜原料糖の生産過剰により生乳廃棄や原料糖の市場隔離が行われるなど、十勝農業を巡る状況は一段と厳しいものとなっている。



出典:北海道農林水産統計年報

北海道新聞(朝刊) 平成16年8月1日

WTO関連作物
 麦類、でんぷん(ばれいしょ)、雑豆、砂糖(てんさい)、乳製品(バター、脱脂粉乳)等

北海道が主産地の高関税品目

品目	関税率
〈関税割当品目〉	
コメ	490%
小麦	210%
バター	330%
脱脂粉乳	200%
でんぷん	290%
雑豆	460%
〈一般の関税品目〉	
砂糖	270%
牛肉	50%

14. 今後に向けた取組イメージ(1)

* 新得町における「レディースファームスクール」とは農業を志す独身女性の研修施設であり、これらをはじめ、各市町村では、様々な担い手育成、新規就農対策を講じている。

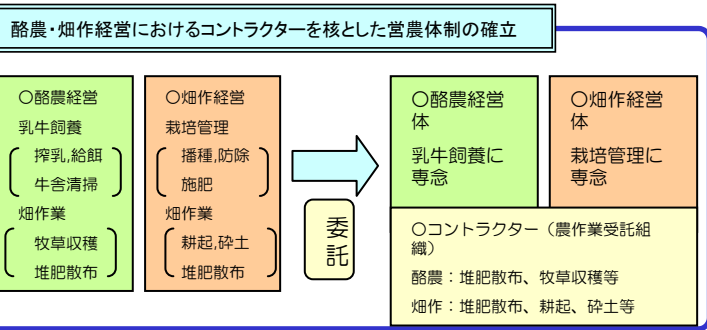
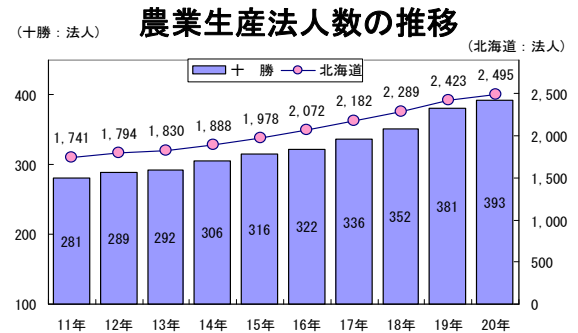
* 効率的農業経営を目指した法人化や労働力不足への対応と機械コスト低減のためのコントラクター事業の展開などが進みつつある。

* 鹿追町では担い手への農地集積とあわせ大型機械の作業効率化による生産コストの低減に向けて畑作のコントラクターの展開を進めるため、殖民区画を基本として、ほ場の大区画化を図る農地再編整備事業を計画している。

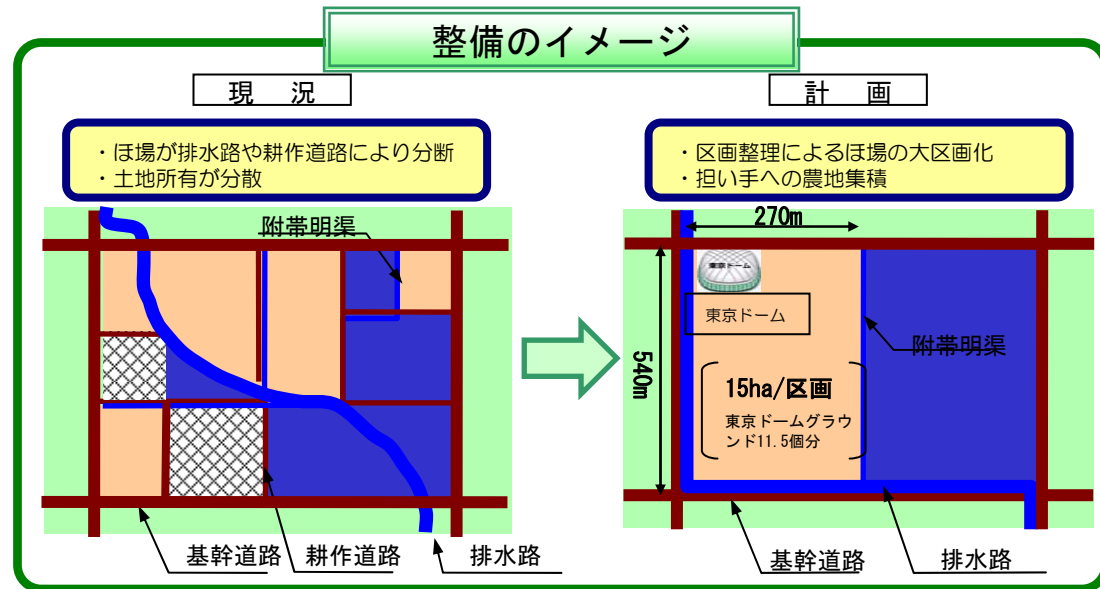


レディースファームスクール(新得町)

レディースファームスクールで生活しながら、1軒の会員農家に3カ月、計4軒を1年間かけて回る。これまで13期、114名の修了生のうち50名が農業に従事し、その半数以上の22名が町内にて従事している。また、農業従事以外も含めると35名が町内に残っている。



コントラクターによる作業(鹿追町)



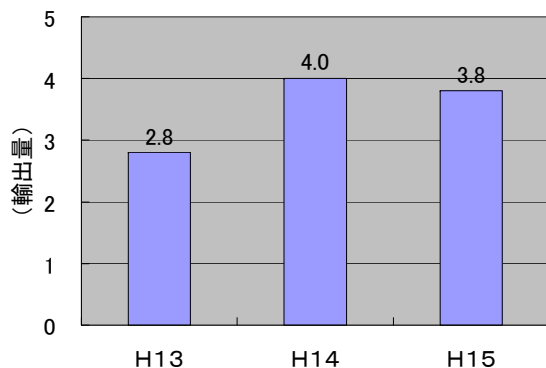
15. 今後に向けた取組イメージ(2)

- * 実需者ニーズに対応した農産物の提供に向けて品種改良等などの取組が進められている。
- * 農産物の安定的供給と野菜等の新規作目導入に向けて柔軟に対応できる土地基盤の整備が求められている。
- * また土地基盤整備によって、生産条件の格差が解消され、交換耕作や農地の流動化等が図られる。

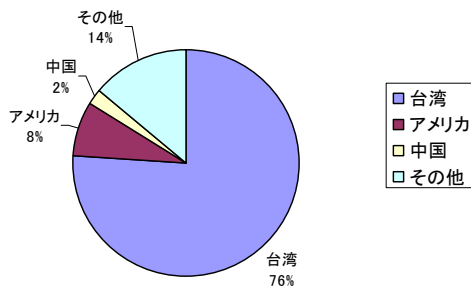
【品種改良等への取組】

海外では大型のながいもが好まれていることを踏まえ、道立十勝農業試験場などでは輸出向けの大型サイズのながいも研究に取り組んでいる。

ながいも輸出量の推移(千t)



ながいも輸出の主な国と割合

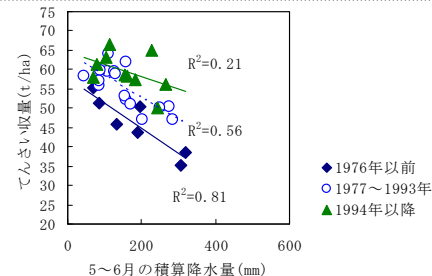
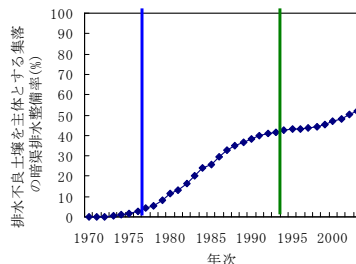


【排水改良の効果】

十勝地域には普通畑面積が約17万haあり、そのうち排水不良土壌が普通畑面積の4割にあたる約7万ha分布している。
このことから、十勝地域における作物生産の安定多収化を図るためには、排水改良が重要となっている。
また、最近の実需者ニーズを踏まえ、ながいもに対応した深暗渠など、排水改良の新たな必要性も生じてきている。

M町事例

暗渠排水整備率の低い時期には5～6月の降水量の増加に伴ってんさい収量が低下。しかし、暗渠整備率の向上に伴い、その関係には相関がなくなり、降水量の多少に関係なくんさい収量が高位安定化している。



暗渠排水とその流出先となる排水路(国営事業)の整備の進捗に伴い、耕作放棄地の減少、戸当たり耕地面積の拡大がみられる。

